

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

## 熊本県における肝疾患コーディネーターの活動向上に向けた実態調査と支援

研究分担者：田中靖人

熊本大学 生命科学研究部生体機能病態学分野 消化器内科学講座 教授

### 研究要旨：

【背景】熊本県では2015年より肝疾患コーディネーター（以下肝Co）を養成しており、その数は年々増加している。これまで2018年、2019年、2021年に肝Coを対象としたアンケート調査を実施し、活動の現状と問題点を抽出し、その改善に努め、必要とされる支援を継続してきた。今回、より効果的な支援を行うため、活動意欲に関連する因子という観点から肝Coを対象にアンケート調査を行った。

【方法】熊本県内の肝Co 484人を対象に、活動の実感、継続の意欲、モチベーション、必要な支援などについてのアンケート調査を行った。

【結果】肝Coとして「活動できている実感」において、「よく」あるいは「比較的できている」と回答したのは23.4%で、今後も「とてもよく」あるいは「比較的活動を継続できると思う」と回答したのは41.4%であった。「活動できている実感」「活動上の不安の有無」「現場の上司・医師からの評価」「仲間や相談相手の存在」が今後の継続意欲に関連していた。

【結語】今後は、活動実感を得る機会としての具体的な活動の場の提供のほかに、不安解消、仲間づくりのための交流を進めたり、肝Co活動評価などの支援を行うことが必要である。

### A. 研究目的

熊本県では、2015年より、肝炎のみならず、肝疾患全般に対する調整者としての活動を目的とする肝疾患コーディネーター（以下肝Co）の養成を開始し、2023年までに822名を認定した。3年に1度の研修会受講を要件とする3年更新制を導入しており、現在の肝Coは511名、認定継続率は62.1%であるが、継続した活動のためには、活動意欲の維持は重要である。これまで、肝Coに対して、2018年、

2019年、2021年に活動内容、活動できていない場合はその理由、必要な支援などについてのアンケート調査を行い、抽出された問題点の改善に努め、必要とされる支援を継続してきたが、今回、より効果的な支援を行うため、活動意欲に関連する因子という観点から肝Coを対象にアンケート調査を行った。

また、「肝炎医療コーディネーターありがとうの日」の制定についての感想も併せて調査した。

さらに、メディカルスタッフセッションの有用性を検討するため、第120回日本消化器病学会九州支部例会メディカルスタッフセッションに参加した肝Coを対象にアンケート調査を行った。

なお、今回の調査は、2023年1月に行い、結果は本年度公表したものである。

## B. 研究方法

熊本県内の肝Co 484人を対象に、2023年1月に、メールおよびSNSを用いて無記名でアンケート調査(添付資料①)を行った。

## C. 研究結果

145人(30.0%)から回答を得た。肝Coとして「活動できている実感」において、「よく」あるいは「比較的できている」と回答したのは23.4%であり、そのうちの97.1%が、今後も「とてもよく」あるいは「比較的活動を継続できると思う」と回答した。一方で、「全く」あるいは「比較的できていない」と回答した肝Coでは、22.7%にとどまり、現在の「活動できている実感」と今後の継続意欲に関連を認めた。また、「活動上の不安の有無」「現場の上司・医師からの評価」「仲間や相談相手の存在」も、継続意欲に関連していた。活動上の不安を「全く」または「あまり感じない」と、今後も「とてもよく」あるいは「比較的活動を継続できると思う」意欲に繋がる。一方、上司等から評価を「全く」あるいは「あまりされていない」と回答する肝Coでは活動継続できると思うCoが少なかった。また、仲間・相談相手が「全く」あるいは「あまりいない」と、今後も活動できると思わないCoが多かった。

活動継続のためのモチベーションとしては「患者さんの役にたつこと、その喜び」47.6%が最も多く、「上司や同僚など周り

からの評価」13.1%、「知識向上すること」9.7%、「他のCoとの交流、活動状況を知ること」4.8%が続いた。

「肝炎医療コーディネーターありがとうの日」の制定については、「意欲が高まる」(53.8%)、「嬉しい」(51.7%)、「誇りに思う」(22.8%)などポジティブに受け止めていた。

メディカルスタッフセッションに関しては34名より回答が得られ、「活動にヒントが得られたか」「他職種の活動を知ることができたか」について、それぞれ97.2%、97.3%が「とても」あるいは「少し思う」と回答した。また、肝Co同士の交流に繋がったとの回答は、51.3%であった。

また、円滑な活動のためには、具体的な活動の場や事例、啓発資材の提供や活動方法の勉強会開催が必要とされていた。

そこで、活動の場や事例提供として、以下の啓発イベントなどを開催した。

( )内は参加肝Co数

2024年

4月30日 あなたの肝臓大丈夫? : 天草市内商業施設(7名)

- ・簡易検査キットを用いた無料肝炎ウイルス検査(①)
- ・専門医による無料相談(②)
- ・肝炎ウイルス検査・脂肪肝啓発のポケットティッシュ等の配布(③)

7月23日 肝疾患ならびに肝炎ウイルス検査受検勧奨の街頭キャンペーン(肝臓週間): 熊本駅前広場(23名)

- ・くまモン(熊本県営業部長兼しあわせ部長)とともに、肝臓病教室(肝臓病の話、肝炎体操)
- ・血圧、握力、血管年齢測定(④)
- ・肝臓病のパネル展示(⑤)
- ・上記①~③

10月15日 あなたの肝臓大丈夫? : 人吉市内商業施設(6名)

- ・ 上記①～③

10月29日 あなたの肝臓大丈夫？：苓北町富岡城お城まつり（9名）

- ・ 出張検査カフェ（16項目の血液検査およびFIB-4 index値）

- ・ 上記①～⑤

なお、このイベントは、苓北町との共同で行った。当該自治体の「健康増進計画・食育推進計画」に着目した肝Co（当院検査技師）らが中心に、町役場福祉保健課にアプローチし、当院での肝疾患啓発活動について説明を行い、共同でプロジェクトを行うことで合意を得たものである。

11月11日 検査と健康展：熊本市商業施設（6名）

- ・ 上記①

なお、このイベントは、検査技師会主催で行われた。

簡易検査キットを用いた無料肝炎ウイルス検査は、本年度は172名に実施した。5名の陽性者を認め、連絡可能であった3名は近医を受診し、未感染が確認された。

さらに、2023年9月17日に実施した肝Co養成講座・研修会（新規養成者：104人、継続受講者：52人）では、講義による肝疾患全般に関する知識習得とともに、パネルディスカッションにて、現役肝Coによる活動事例ややりがい、障壁やその解決法などの提示が行われた。

また、2024年1月28日に上天草市で実施した肝Coフォローアップ研修会（10名参加）では、「肝Coとしての役割を考える」をテーマにグループワークを行い、これまで肝Coとしてできた活動、できなかった活動とそれぞれの理由をディスカッションし、アクションプランの作成を行った。

これらのイベントや研修会の情報は、

肝炎医療コーディネーター活動応援団（LINE）を活用し案内を行った。

さらに、啓発活動の一環として、以下のメディアにて広報活動を行った。

2023年

6月26日～7月25日

WEB広告 市民公開講座について

7月28日

熊本日日新聞 「肝炎デー」企画

12月29日

朝日新聞 熊本脂肪肝プロジェクト

2024年

2月14日～3月14日

WEBバナー広告

#### D. 考察

今回のアンケート調査で、肝Co活動継続においては、活動に対する自己および他者の評価、活動上の不安の解決、仲間・相談相手の存在が重要な因子であることが明らかとなった。

一方、肝Co活動のサポートには、活動実感を得ることのできる機会のひとつとして具体的な活動の場や事例、啓発資料の提供や、活動方法の勉強会開催が必要とされていた。以前に施行した肝Coに対する活動状況に関するアンケート調査でも、同様に、活動の場や事例の情報提供は求められており、これまでも、啓発イベントの開催による活動機会の増加や、パネルディスカッションやグループワークによる事例提供や勉強会開催に努めてきたが、熊本市内での開催が多く、遠方の肝Coの参加が困難であるという問題点があった。よって、今年度は、地域でのイベント、勉強会を行い、また開催方法も地方自治体との連携を図るといった、新しいアプローチを行った。これらはいずれも今後も積極的に取り組みたい活動であり、実施においては、地域の肝Coが計画立案か

ら主体的に参加することで、より強い活動の実感を得ることができるものと考えられる。なお、事例などの活動情報収集の場として、メディカルスタッフセッションへの参加も有用と思われた。

また、仲間や相談相手の存在が活動継続には必要であることも明らかとなった。単なるマンパワーとしてだけでなく、支援や助言しあうことが、活動上の不安の解消にも繋がるものと思われる。さらに、個別の肝 Co 活動への評価ならびに職場上司への活動成果の周知も重要である。従って、拠点病院としては、先述の活動の場の提供に加えて、不安解消、仲間づくりのための交流を進めたり、肝 Co 活動評価などの支援を行うことが必要である。

## E. 結論

肝 Co の継続的な活動のため、活動の場や方法を提供し、活動への満足感を高め、不安を軽減する支援を継続する。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

瀬戸山博子、野村真希、矢田ともみ、吉丸洋子、檜原哲史、稲田浩気、田中健太郎、蔵野宗太郎、徳永堯之、飯尾悦子、長岡克弥、渡邊丈久、江口有一郎、田中靖人  
肝炎医療コーディネーター活動継続における肝疾患診療連携拠点病院の役割 肝臓 2023 ; 64 (11) : 583-586

瀬戸山博子、田中靖人

各種医療制度活用において期待される肝炎医療コーディネーターの役割と課題 肝胆膵 2023;88 (2)

### 2. 学会発表

杉桜子、松浦由沙、井上有子、瀬戸山博子、田中靖人 新型コロナウイルス感染拡大

が肝疾患コーディネーターの活動意欲に与えた影響 第 122 回日本消化器病学会九州支部例会抄録集 P. 26

寺元栄一、瀬戸山博子、野村真希、吉丸洋子、田中靖人 薬局薬剤師の肝炎医療コーディネーターとしての役割 第 122 回日本消化器病学会九州支部例会抄録集 P. 26

野村真希、吉丸洋子、瀬戸山博子、田中靖人  
肝炎医療コーディネーター活動継続に向けた支援におけるメディカルスタッフセッションの有用性について 第 45 回日本肝臓学会西部会講演要旨 肝臓 2023 ; 64 Suppl. (3) A802

## G. 知的所有権の取得状況

なし

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし